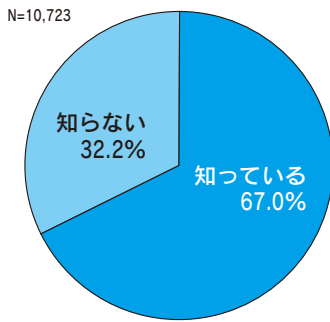
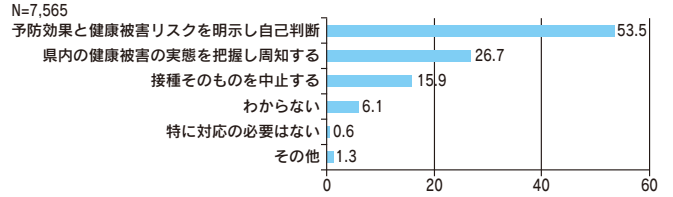


7-1. 子宮頸がんワクチンにより健康被害が起きていることを知っていますか。【1つ選択】



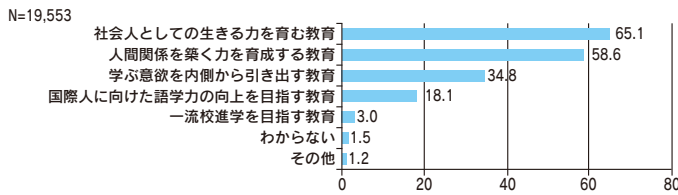
健康被害の認識は高いがワクチン接種の対象となる年代に近いほど、周知が行き届いていない状況がうかがえます。行政における役割の発揮を強化する必要があります。ことがうかがえます。

7-2. ワクチンの接種には、どのような対応が必要と考えますか。【1つ選択】



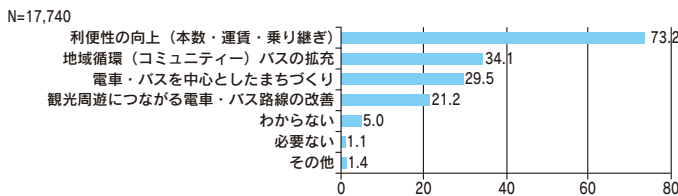
「予防効果と健康リスクを明示し自己判断」や「健康被害の実態を把握し周知」が高く、予防効果は期待しつつもリスクが十分把握・周知がされていないとの認識がうかがえます。更なる周知に努める必要があります。

8. 学校教育のあり方について、優先すべきことは何だと考えますか。【2つまで選択】



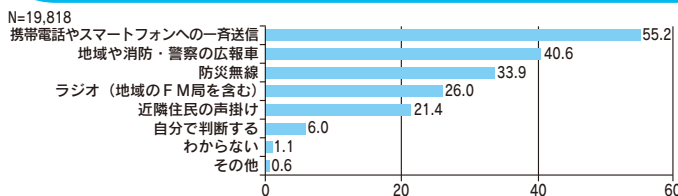
「社会人としての生きる力」や「人間関係の構築」を求める声が高く、人と人とのつながりやコミュニケーションの重要性を指摘していることがうかがえます。

9. 公共交通の利用促進に向け必要なことは何だと思いますか。【2つまで選択】



「利便性の向上（本数や運賃・乗り継ぎ）」を求める声が高く、次いで「地域循環（コミュニティ）バスの拡充」となっています。公共交通の利用促進にはまちづくりとセットで考え、息の長い取り組みとして対策の強化が必要と考えます。

10. 台風などに伴う豪雨や土砂災害、竜巻などによる突風被害が報告されていますが、避難指示はどのような対応が有効と考えますか。（停電を想定してください）【2つまで選択】



「携帯電話やスマートフォンへの一斉送信」や「地域や消防・警察の広報車」など、情報をいち早く伝える、また、情報提供を求めていることが考えられます。該当エリア内に対する災害危険予知情報の有効活用が必要であると考えます。

パートタイムで働く仲間を集いを開催

組織をこえてパートタイムで働く仲間が交流

非正規労働者支援として、今年の4月に改正された「パートタイム労働法」の周知を目的に、パートタイムで働く仲間の集いを高崎・太田の2会場で開催しました。

高崎会場は後藤克己県議、太田会場はあべともよ県議に「配偶者控除の現状と今後の見直し論議について」の説明をしていただきました。また、グループディスカッションとして、「仕事と家庭を両立するために」をテーマに様々な意見が交わされました。

高崎会場（7/5）

エテルナ高崎で開催し、18名が参加しました。

後藤県議は、『夫が正社員で妻が専業主婦』というモデルが崩れている中で、見直しの論議は避けられない。しかし、単なる配偶者控除の廃止は実質的な増税であり、この財源をどう使うかが重要」と説明。

グループディスカッションでは「短時間勤務制度に助けられた」、「上司や周りの人の理解に支えられた」などの意見が挙げられました。



太田会場（8/2）

ダニエルハウスで開催し、17名が参加しました。

あべ県議は、「配偶者特別控除ができた背景から政府が見直しを行う視点、フルタイム・パートタイム労働者の賃金格差の推移」などを説明。

グループディスカッションでは「家事と育児は夫婦で分担できるように、夫の理解が重要」などの意見が出されました。

